

### 1. この会社が目指す姿が理解できるか

「地域を元気にする」という明確な目標がしっかり伝わってきた。JR 東日本や西日本よりも管轄が狭い分地域により密着した事業が可能であると考えられるため、この目標を大々的に掲げることには説得力があり、「住みたい・働きたい・訪れたい九州をつくる」、という簡潔な言葉でまとめられている。

しかし、「地域」というのは都市部だけではなく郊外も含まれる。開発が行われているのは主に都市部であるが、郊外の発展にももう少し目を向けるべきだと考える。もちろん農業への参入や業績が伸び悩む中小企業への投資といった、都市以外に着目した事業も挙げられているが、駅の利用客が減少して過疎化が進んでいる地域の発展についてどのように考えているかが気になった。郊外では駅ビルの建設というのは非現実的であり、それ以外でいかに魅力的な駅をつくって利用客を増やし、周辺地域に経済効果をもたらすか、ということにも少子高齢化が進む中向き合わなければならないと思う。

### 2. この会社の競争優位性が理解できるか

鉄道という事業の性質上競合が少なく、もし JR 九州がなくなってしまったら九州の主要な駅もなくなり人と物の流れに大きな影響を与えるため、もともと競争優位性は高いと言える。それを前提に話を進める。

JR 九州は鉄道を運行するだけではなく駅ビルの建設など駅周辺の開発にも力を入れている。駅ビルがある駅は、ただの交通の通過点ではなく、わざわざ降車して訪れたい駅としての魅力がある。そして駅の周辺にはオフィスや店が立ち並ぶ。このように物流や人流、ビジネスの拠点となっていることは他の交通機関や地方の鉄道会社にはない点であり、競争優位性は理解できる。

### 3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

熊本駅周辺開発の例では、人口動態や立地・商圈といった開発の背景が記されており、ある程度長期的な視点で開発が行われていることが分かった。駅ビルがある駅の周辺の人口は比較的多く、もともとある程度発展しているため都市部における優位性に持続性はあると考えられる。

郊外に関しては、投資や農業への参入などで郊外の地域の活性化に貢献することが

できれば、その地域の人口は維持、または増やすことができ、それに伴って駅の利用客も増やすことができる。つまり、地域の活性化はただの慈善事業ではなく、JR九州にとって大きな利益があり、活性化に取り組むことが優位性の持続性を保つカギになるというように推測した。

#### 4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

鉄道会社でありながらも鉄道事業のみにとどまらず地域おこしを目指したビジネスにも取り組んでおり、駅という人と物の流れの拠点をどう生かすかということを考えることを通して課題解決能力や創造力を養うことができると感じた。

特に安全面に関わる仕事においては、統合報告書で挙げられていた仕事のマンネリ化というのは確かに懸念点ではあるが、ヒヤリハットを共有して対策を講じるといった、事後の指摘だけではなく事前に何かできないか考えるという点は魅力的である。

「学ぼう!やってみよう!宣言」という取り組みも紹介されていたが、具体的にどんなことを学ぶことができ、どんな能力を身に付けることができるかが記されているとよかったと思う。

#### 5. 報告書にはどのような改善余地があるか

あるべき姿の部分に、「安全とサービスを基盤として九州、日本、そしてアジアの元気をつくる企業グループ」とある。九州の元気をつくるというのは理解できたが、その先の日本、アジアの元気をつくるという部分は伝わってこなかったのも、そこを加えるとよいと思う。もしまだ具体的な事業がないのであれば、その事業を考えることで九州にとどまらずアジアにも目を向けることとなり、企業の課題として挙げられていた仕事のマンネリ化というのも改善されるのではないだろうか。

また、「持続可能な社会の実現」という章では環境問題にかかわることのみ書かれていたが、地域社会を持続させるという方が持続可能な社会の実現において最も達成したいことだと思うので、その記述があるとよいと感じた。